

平成30年度 延岡市立方財小学校 学校評価書

本年度の重点目標	① かしこく（学年や個に応じた学力の向上） ② やさしく（思いやりの心と節度ある行動の育成） ③ たくましく（体力向上と健康で安全な教育の推進） ④ とともに（家庭や地域、関係機関との連携の強化）
----------	---

4段階評価： 4 期待以上
 3 ほぼ期待どおり
 2 やや期待を下回る
 1 改善を要する

評価項目	評価指標	自己評定	自己評価結果の考察・分析	学校関係者評価委員コメント	評価
学年や個に応じた学力の向上	① 基礎的・基本的事項の定着とそれらを生かす応用力の育成力 ② 家庭学習の充実と基本的な学習規律の育成 ③ 読書活動の推進	2.9	○ 基礎的・基本的事項の定着に比べると、応用力はそれほど育成できていないと感じている。自分たちの指導方法や指導技術を見直すとともに、効果的な応用力を伸ばすための指導方法を身につける研修を重ねることが必要である。 ○ 家庭学習の指導について十分力を入れてきた結果、ほとんどの児童に家庭で学習する習慣が身についた。また、話し方や聞き方等の学習規律についてもほぼ目標を達成できたと考える。 ○ 読書については、学校での実態と家庭での実態に違いが見られる結果となった。学校での取組は効果を上げているので、今後家庭での読書の習慣を身につける取組を保護者の協力の下行っていく必要がある。	必要な情報を選択して問題を解くためには、そのためのスキルを身につけさせる必要がある。また、文章をすらすら読んだり、理解したりするためには国語の力が必要である。その意味でも、読書について、家庭を巻き込んでのさらなる充実に努めてもらいたい。	3
思いやりの心と節度ある行動の育成	① 基本的な生活習慣の定着 ② 道徳的実践力と自主的な態度の育成 ③ 思いやりや親切な心、児童相互の信頼関係の育成	2.9	○ 基本的な生活習慣の定着については、身につけている児童とそうでない児童の二極化が見られる。学校だけの指導では及ばないことが多いため、家庭の意識を高める取組が今後も必要である。 ○ 自主性については教師が思っているほど保護者は育っていないと思っれていることが分かった。児童一人一人にきめ細かな指導や支援ができることが本校の特徴の一つであるが、自主性の育成を第一の目標に、各種行事や児童会活動等において、児童に任せる部分を増やしていく等の工夫が今後必要であると思われる。	指示待ちの子どもが多いのは、少人数ゆえの部分がある。子どもに活動を選択させる等、自分たちで考えて動く場面を多く設定するとよい。また、基本的な生活習慣の定着については、家庭の協力が不可欠である。保護者と連携した取組をお願いしたい。	3
体力向上と健康で安全な教育の推進	① 体力テストに基づいた体力の向上 ② 児童の実態に基づいた保健指導の充実（積極的なむし歯治療の勧告） ③ 校内外での安全指導の充実と食育の推進	2.9	○ 体力向上プランに基づいた指導を行うことで、児童の体力の向上が見られる。業間に行う「一輪車」「持久走」「なわとび」等の運動が、児童の運動意欲を高める一因になっていると思われる。 ○ 全校のむし歯治療率は現在70%で、前年度より向上した。保護者へ繰り返しの呼びかけの効果によるものと考えられる。 ○ 災害時の避難行動については、児童自らが判断できることを目標に訓練を行った。その結果、自分の命を守る判断ができる児童が増えてきている。発達段階に応じた指導を今後も継続していきたい。	「保護者アンケート」では、運動と手伝いとを同じ質問項目で尋ねているが、こちらは別々に質問した方が、それぞれの実態が把握できる。また、手伝いについては、「② やさしく」の評価項目に入れるとよい。	3
家庭や地域、関係機関との連携の強化	① 地域の人材や素材を生かした方財ならではの教育活動の推進 ② 保護者や地域への教育活動や取組の情報を発信	3.5	○ 期待以上の成果であった。地域との関わりに気づかせる様々な指導が、効果を上げていると考えられる。今後も、地域に感謝し、地域を誇りに思う児童を育てることに力を入れていきたい。 ○ 保護者が、学校教育に高い関心を寄せていること、学校を信頼していること、PTA活動へ積極的に関わろうとしていることが分かった。学校からの情報をさらに積極的に発信し、学校・家庭・地域が連携することにより、期待される学校であり続けたいと思う。	学習発表会でも地域の題材を劇にする等、地域との関わりに気づかせようとする取組がよくなされている。また、保護者や地域の方々の協力体制も素晴らしいものがある。	3.5

【学校関係者評価委員による総評】本年度の取組について、次年度への改善に向けて

全員登校がこれまでに120日であるということは、子どもに学力や体力、基本的な生活習慣がある程度身に付き、学校が楽しいと思えている証拠だと思われる。また、それには保護者や地域の協力も大きな要因となっている。今後も、家庭や地域と一体となった学校運営に取り組んでもらいたい。

